令和３年度

「県・市町村青少年相談担当職員研修会」

参加者アンケート結果

群馬県子ども・若者支援協議会

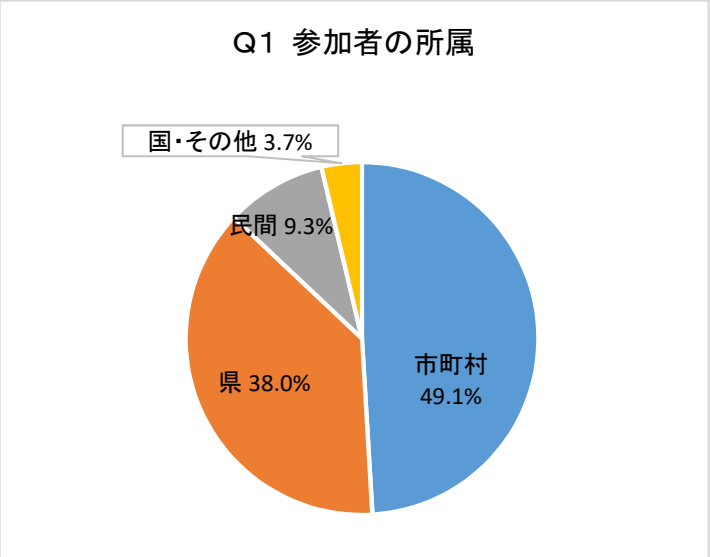
令和3年度　県・市町村青少年相談担当職員研修会　アンケート結果

日時　令和3年12月23日（木）
13:00～16:00
会場　県公社総合ビル

〇研修参加者　142 人
〇回答者　108 人
〇回答率　76.1 %

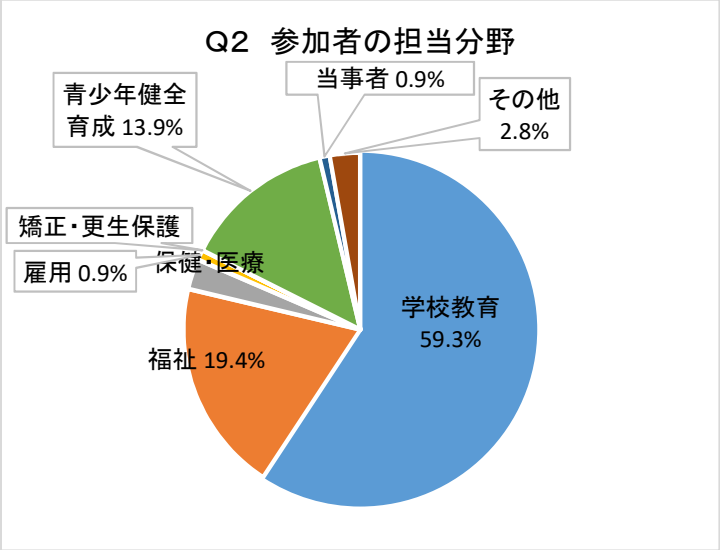
Q1　回答者の所属

	人数	割合
市町村	53	49.1%
県	41	38.0%
民間	10	9.3%
国・その他	4	3.7%
合計	108	



Q2　回答者の担当分野

	人数	割合
学校教育	64	59.3%
福祉	21	19.4%
保健・医療	3	2.8%
雇用	1	0.9%
矯正・更生保護	0	0.0%
青少年健全育成	15	13.9%
当事者	1	0.9%
その他	3	2.8%
合計	108	

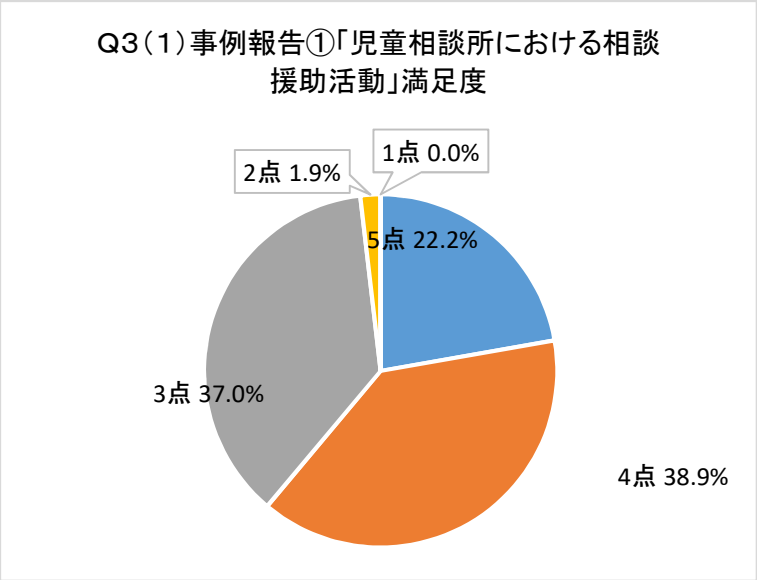


Q3（1） 事例報告①「児童相談所における相談援助活動」

報告者　中央児童相談所　家庭支援係　補佐（児童福祉司）　三浦由佳氏

進行役　石川　京子氏

満足度		人数	割合
高	5点	24	22.2%
↕	4点	42	38.9%
	3点	40	37.0%
	2点	2	1.9%
低	1点	0	0.0%
合計		108	



〇意見・感想等

1	相談援助の内容が具体的にわかって良かった
2	高校に勤務しています。以前虐待で通告した際、本人からの相談が必要と言われたことがありました。高校生になると支援の場、支援を受けるためのつながりが難しいと感じています。
3	具体例がもっと聞けたら良かった。18歳でプチッと切れて、対象でないというスタンスが強い。
4	お話の中でもありましたが、相談内容は虐待案件が多いイメージでした。しかし、育成相談等もあるとのことで思っていたより幅広いと知りました。高校でも相談したいことがありますが、高校生はなかなか対応してもらえないと聞いたことがあります。実際はいかがなのでしょうか。
5	もっと具体的な事例、連携の仕方がお聞きしたかったです。近年、何件も児相のお世話になっている子どもたちがいます。現在、家庭支援に入っていただいているケースで明らかに養育者の養育力不足で子どもが不登校、ひきこもり、自宅はゴミだらけ、ゲーム依存、衛生環境もよくない状態で一年間経過しましたが、なかなか一時保護をしてもらえません。教育現場ではすごく危機感がありますが、家庭支援と虐待との関わりが薄いのでしょうか。現場脱却のため、是非お力を借りたいです。
6	虐待だけではなく、業務が幅広いことがわかりました。子どもは愛され保護される者
7	児相と連携をとっている。
8	身体、ネグレクトだと目に見える虐待としてつながり易いが、心理的となるとなかなか児相の家庭支援が入らないことが多い。なかなか難しさを感じます。
9	事例をあげていただいたことがとても参考になりました。児相さんが身近な相談機関であることをもっとわかりやすく訴えて欲しかったと思いました。
10	「市町村と児相との違い」が参考になりました。できること、できないことを社会の様々な機関と連携、分担していきたいと思いました。自らの役割を考えていきたいです。
11	児相の仕事についてよくわかりました。地域のある幼稚園で就学時健診の時に児相の心理士さんに来ていただき、すぐに保護者につないだという話を聞きました。
12	児相についてのある程度の知識を得ることができた。
13	説明的部分が多かった。事例報告なので具体的な話がもう少し聞けると良かった。
14	児相で検査してもらい医療機関を紹介してもらい服薬をするようになり、授業に集中できるように改善した小2の男子がいた、以前は椅子に座っていられず出歩きが多かった男子だった。
15	主に手帳の申請でお世話になったが、今後は相談機関の一つとして保護者に紹介できたらと思った。
16	遠いところにあるイメージでしたが、少し身近に感じられるようになりました。

17	虐待が疑われる案件で連携した。
18	精神疾患のある親の支援をする中で児相との連携がある。児童を守る立場、親をサポートする立場、それぞれ違う立場で安心した生活ができるように連携している。
19	相談は多岐にわたって受けることになっているが（外への発信）、実際は「困難事例」「虐待」「一時保護」と狭いので（実情）そこがわかるような現実に近い広報というか、周知をしていただくと割り切れるというか、役割が分かる。
20	児童相談所の役割がとてもわかりやすかったです。児童相談所のネットワークを活用してケースの改善につなげていきたいと思いました。できれば実態や現状についても聞きたかったです。
21	学校現場に勤務しています。学校と児相との連携について事例を通してもう少し具体的に教えていただけるとありがたいです。
22	児童相談所の役割が良くわかりました。
23	今日の話で児相の役割が分かって良かった。
24	自殺未遂者（子ども）児相要保護⇒保護解除⇒見守り状態。要対協対象家庭、児相と学校担任とで家庭及び本人の情報を共有している
25	配布資料として配る必要はないが、事例の話をしていただけるならばスライドを使って視覚化された資料があると良かった。
26	守秘義務がありなかなか具体的な話は難しかったと思いますが、どんな子どもにどのような対応をしているかもう少し詳しく知りたかったです。今、児相と関わっている子どもが周りにいますが、学校と児相との考え方の違いがあり、難しい上に密に連携することが難しいと感じています。
27	落ち着いた声で聞きやすかった。児相の大まかな活動がわかった。
28	児相に対してのイメージが変わりました。実際に私のクラスの生徒が児相に通っており、担当の方がつながりをしっかり保ってくれているので助かっています。
29	法に基づいた強制力をもつ機関であること。保護者への指導のために利用すること、してよい。
30	児相だけで解決できないことを民間、自治体と一緒にとのお話はよく分かりましたが、自治体も専門の職員が従事するのではなく、人事異動があり、人によって熱量が違うと思う。自治体も民間と連携が必要ではないかと思いました。
31	イメージが変わりました。市町村との役割比較により、業務内容を正しく理解することができました。
32	児相の方はよく頑張ってくださっている。特に群馬は虐待で24時間以内に生存確認をするなど努力していると感じる。その熱量をもっと出されてもよかったと思った。
33	子どもを迎えに来てくれた児相の職員が親に対しても軽い感じの対応でした。子どもに対しては軽い感じで親近感がわいていいと思うが、親に対しても同じだったので親御さんは不信感が強くなってしまった。一度不信感を持ってしまうと、その後が難しくなってしまう。一人で二つの市か、三つの市を対応されている（児相の職員）。確認したくても不在のことが多い。もう少し職員の人員配置を考えてもらえると相談しやすいです。
34	声が小さくてよく聞こえませんでした。
35	いろいろな機関に連携がつながっていることを聞いて勉強になりました。
36	「事例報告」という項目だったが内容的には一般的な説明がほとんどだった。日頃、児相には大変お世話になっており、良好な協力関係にあると思っています。
37	協力してくださる方々がたくさんいる。笑顔を取り戻すまでのご苦労がある。本当に時間がかかることですが、焦らずに指導していきたい。
38	具体例がわかりやすかった。
39	三浦さんのように熱い相談員の方に出会えると良いと感じた。児相は担当の方にもよることもあるように感じた。様々な地域の支援につなげる大切さを改めて感じた。
40	児童相談所の概要については理解できました。個人情報の問題もあるかと思いますが、もう少し事例があると児相が身近に思えると思いました。また、不登校の対応などで児相がどう関わっていくのか、もう少し伺いたい。

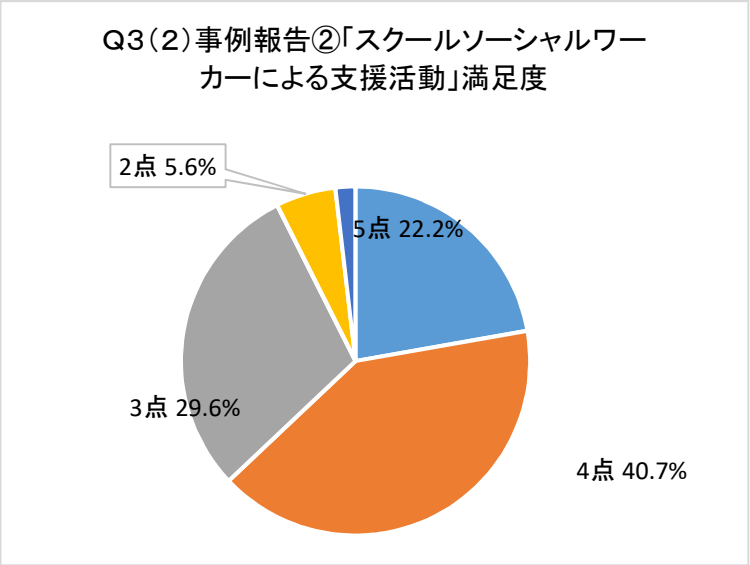
41	家庭内暴力で児相にお世話になった生徒がおりました（全日制高校）。しかし、18歳の誕生日を迎え児相を離れることになりました。管理職が対応していたのですがその後は聞いていません。（市町村の保健師さんにつながったのでしょうか）私は学生の時に、児相で宿泊補助をしていました。その時のことを思い出しながら聞いていました。お話、わかりやすかったです。ありがとうございました。
42	自分が感じている困り感や考えを他の方も思っていることを知り何だか安心しました。皆様、場面は違っても子どもと親御さんを大切にしてくださっている事を知り、とても嬉しく思います。
43	改めて児相の仕事について確認することができました。「なんとなく」児相の役割について分かっていたつもりであったと反省しました。「児相が全てする」というイメージを持っていましたが、いろいろと連携の中心になっているということに驚きました。
44	継続した関わり連携について、少し残念に思うことが多いので、切れ目のない支援についてもう少し寄り添っていただけたらといつも思ってます。
45	児相との連携は重要。
46	三浦さんの話から児相の果たしている役割は多岐にわたることが改めてわかりました。学校にとっても、家庭にとっても、児相の存在はまだまだ敷居の高いものだと思います。幅広く受け入れて下さる機関だということがもっと認知されるようになればと思います。
47	ぐ犯行為の見られた子をこども食堂につなげて、子どもに役割（居場所）をつくった事例はすごく心に残りました。
48	支援のケースの事例をもう少し詳しく聞く機会があるとありがたいです。18歳で支援が打ち切られてしまうと思うと、高校は児相と連携しづらいと思ってしまうことが多いです。せめて高校卒業まで（社会に出るまで）関わっていただけるとありがたいのですが。
49	ネグレクト、どうサポートしたらよいか分からない。
50	何度か一緒に仕事をさせていただきました。学校と児相の連携は今後ますます必要になると思います。もしできれば何か問題が起きてからの連携ではなく、学校ですでに困っている子どもへの対応を早い段階で情報共有や連携がしたいと感じます。また上手くいかなかったケースも知りたいです。
51	支援につなげるための指導という理解が深まりました。
52	子どもたちのためにそれぞれが補完し合うことの可能性と大切さがよくわかりました。これから先に目指していくことが少し明確になりました。
53	児相の相談援助活動について説明していただき、2つの事例についても具体的に聞くことができ良かったです。あらゆる援助内容を考えていきたいと強く思いました。
54	児相とはほんの一部の事例しか経験がなく、理解していないことがありました。全体像が少し見えました。
55	普段、児相と一緒になってケースに対応することが多いが、役割の違いについて改めて理解することができた。
56	普段から児相の方と連携させてもらっています。お世話になっています。子どもたちの幸せのためにあらゆる機関がチーム体制を整えて役割分担をすることが大切だと改めて感じました。

Q3（2） 事例報告②「スクールソーシャルワーカーによる支援活動」

報告者　中部教育事務所　スクールソーシャルワーカー　相﨑ゆ美氏

進行役　石川　京子氏

満足度		人数	割合
高	5点	24	22.2%
↕	4点	44	40.7%
	3点	32	29.6%
	2点	6	5.6%
低	1点	2	1.9%
合計		108	



〇意見・感想等

1	SSWの業務についてよくわかった。
2	市立高校は利用できません。SSWの先生にお世話になりたいと思うのですが、他にも家庭に介入するための方法を知りたかったです。
3	外部の人につなげて終わりという雰囲気を感じることがあります。どこまで学校で対応して、どこまでを外部に頼みたいのか、もう少し構想があると助かります。
4	高校生の兄への支援、その母親への支援を依頼したく各関係機関に問い合わせたところ、高校（本校）からのSSWは難しく、中学生の妹（不登校）の支援からという形で支援していただいています。しかし、中学校や市教委との連携が難しくスムーズではありません。
5	SSWが本校にも月2回程度勤務されていますが、どのような得意分野がおありなのか、来ていただく方が毎年違っており、学校現場でどう動いていただくのが子どもたちの為になるのか悩んでいましたが、今回のお話を聞いて少し分かりました。もっと子どものことを知ってもらいアセスメントしていただくことから、活躍していただけたらな、もっと頼っても良いのだなと思いました。
6	朝、登校して来ない生徒の家を訪問し、声をかけてくださっていると聞きました。
7	無関心を装う児童がいないようにしたいと言われたことが印象的でした。チーム学校の一員だからこそ、困っている子のよりよい支援ができるよう、働きかけていかなければと思いました。
8	具体的な事例を少しあげていただければより一層参考になったと思います。（差し支えのない範囲で）SSWの難しさを語っていただきたく思いました。
9	表面化した現象から潜在的なニーズを考えること。意識していきたいと思いました。
10	「表面に現れない要因についてアセスメントをするのがSSW」というお話が印象に残りました。有効な連携の仕方を探っていきたいと考えています。
11	最初にSCとSSWの違いを伝えることでSSWの理解が深まるのではないかと思う。そこを外してしまうと関心を持って聞くのが難しくなる。意見交換では福祉の立場を語っていただきわかりやすかった。
12	具体的なSSWとの連携の仕方を聞きたかった。学校現場ではSCほど知られていないため、どんな時にどのように活用できるか知りたい。
13	自ら作成した思考回路の図が紹介されたが、それよりも具体的な事例を聞きたかった。一つの事象をシステムとして考える支援、取り組みは、家族心理学などにも取り入れられるので共感できる。

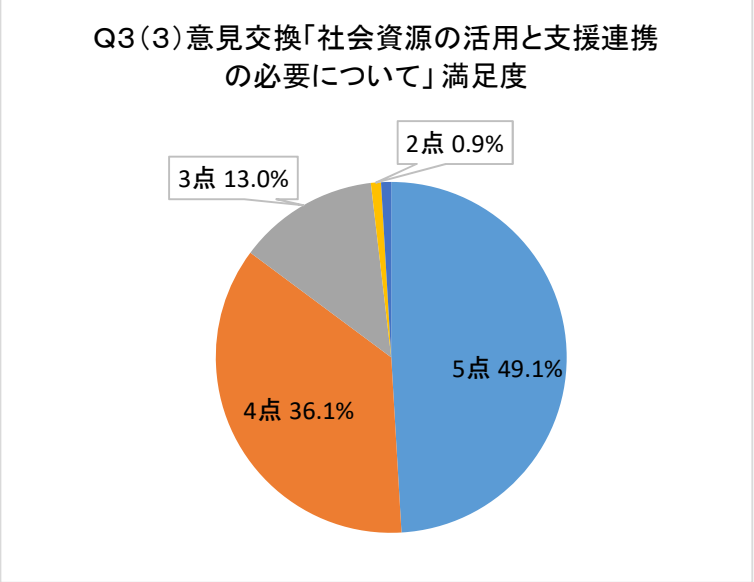
14	高校で息子が不登校になり、SCにお世話になったが、長期的な視点（人生の行く先を視野に入れた切れ目ない支援）や他機関との連携・紹介がなく、本人・家族が孤立した苦い経験があります。高校で不登校になると、その後の進路に大きな影響があり、その時に適切に動けなかったため、ひきこもり期間を過ごすことになってしまいました。現在はいろいろな所とつながり、相談した結果、ハローワーク相談から専門学校につながり通学していますが、不登校時に適切な関わりができていれば、あんなに本人・家族が苦しむことがなかったのではと、悔しい思いがあります。是非、高校の不登校に関しても、SSWの充実、他機関との連携（学校だけの単発相談で終わることが多い）に力を入れていただき、人生の行く先を視野に入れた長期的視点での支援連携を望みます。その当時、〇〇クリニックのカウンセラーさんが来ていたが、〇〇クリニックを紹介してくださいとお願いしたら、年齢オーバーだと断られてしまいました。親は何も分からず右往左往している中での受診の断り、それに代わる紹介施設もなかったと記憶しております。本当に残念な対応です。
15	SSWに方のお仕事の内容や仕事へのお考えがよくわかりました。先生のシステム理論のお話はとてもわかりやすく参考になりました。先生のケースに対するお考えに好意が持てました。
16	「SSWは重層的な関わりができる」心に残りました。しかし遠い存在です。
17	本校児童の支援に関わっていただいている。ケース会議を開催し、市・学校は情報共有し相﨑先生がパイプ役をしてくださっている。また家庭訪問し保護者と市をつなぐ役割もしていただき、学校だけでは対応できない家庭（保護者）への支援の充実につながった。
18	学校にいる時間だけでなく、人生の行く先を視野に入れた切れ目のない支援という言葉が心に残りました。重層的な支援は大切だと感じました。
19	生活保護家庭や家族してひきこもり傾向のある家庭に対応してもらっている。
20	講師の説明がいまいち分かりにくい。活動についてイメージしにくかった。何が重要なのか、どこが重要な話なのか分からなかった。SSWは何なのか、開始から終わりまでの一連についてや、どこまで支援活動、関わりの範囲等、業務内容について具体的に知りたかった。
21	抽象的なお話であったが、幾つかのヒントとなるキーワードがあった。歯車の思考の話を、仮の事例でもよいので当てはめて聞きたいと思った。
22	全体的な概要はとてもよくわかりました。視点やアセスメントの重要性、参考になりました。具体的にこんな場面で支援していると紹介していただきかったです。
23	SSWとSCとの関係についても教えていただけるとありがたいです。
24	問題行動の子どもの根本的状況を把握することが必要だと思った。
25	もう少し事例をあげながら話をしていただきたかった。SSWとしてどのように関わったら、どのような支援ができたか、様々な例を挙げていただいた方が、私たちがどんなことをSSWと連携できるかがわかります。
26	ご自身の活動方法を理解してもらえるよう努力していた（歯車、黒子など）
27	仕事についてや役割を学ぶことができた。SSWを各学校に配置してもらえると教育現場が大分良い方向に変わると思いました。
28	SSWの役割が少し明確になった。活用の仕方はもう少し分からない。
29	一人ひとりの子どもが自分の気持ちを自由に語れる、言えるような環境づくりや支援者の育成が大事と感じました。
30	「一つの歯車が動き出すと、全体が少しずつ動き出すことがある」というお話がありました。本題とちょっと違うかもしれないところでも動かすことが大切だと感じました。
31	SSWの仕事ぶり全体を捉えるためにわかりやすかった。それでも具体例があるともっと伝わり易いと思った。
32	保護者に障害があり保護者の担当相談員をしています。子どもが保健室登校で勉強にも遅れがあると思われる。その件で学校に相談の連絡、時々会議をしているが、SSWが出てきたことがありません。こちからかお願いしないと難しいのでしょうか？。学校内では連携しているのかもしれませんが、なかなか見えてこない。
33	SSWの役割、考えを知ることができました。多くの学校にSSWが配置されると学校としての困り感も軽減されるのではないかと思います。しかし、外国籍の多い地域では言語等の問題も考えられるのかなと思いました。
34	「困難な背景を持つ子は、自分の気持ちを言語化することが難しい」とても身に覚えのあることで、教育相談担当として常に言語化できない、その裏を考えていかなければいけないと感じました。

35	各学校に配置されるとよりよいと思います。普通の保護者の方にも認知度が拡がるといいと思います。
36	「具体的な事例は省略」と前置きされてしまうと項目とは合わない。福祉部局の指導主事として学校やSC，SSW等と日常的に連携している。
37	隠れている状況をアセスメントしていることが大切なので、無理のないように隠れていることを話してもらえるようにしていけたらと思う。（SSW）
38	SSWという人に関わったことがありません。県立の学校とはあまり関わりがないのか、たまたまなのか、こういう人がいることを知れた。
39	SSWの存在や支援の入り方について知る機会がなかったため大変参考になった。
40	SSWの仕事は「のりしろ」というのが、とてもわかりやすい表現でした。まだまだ県内の学校にSSWは少ないので、もっといろいろな場で活動内容を発表していただいて、保護者に理解してもらいたい。
41	SSWの支援が必要な家庭を相談機関につないでもらっている。具体的な事例も聞きたい。
42	SSWの活用について知りたいと思って本日参加しました。高校での活用や保護者にどう伝えればよいのか、専門アドバイザーとSSW、どちらの活用が適切なのかなど、今後、高校における事例などがあったら聞いてみたいと思っています。
43	支援を依頼できるのはどんなケースなのか、多少具体的な事例を聞きたかった。
44	思考を少しのぞかせていただき参考になりたいとなりました。思っていても実行できなかった事を勇気をもって進めたいと思います。親や子どもの味方になりたいと思い、信じて付き合いたいと思います。
45	SSWと役割と、どういう視点、スタンスで仕事をされているか可視化されていたので分かり易かった。学校現場では目に見える部分に視点がいきがちなので、目に見えない部分をSSWが照らしていくことで大きく前に進むことができると感じました。
46	学校との連携について、具体的な事例など聞けたら良かったです。医療機関のSWの方々はとても親身に対応して下さって感謝しています。退院後、学校生活がスムーズに送っていけるように、また学校ができる支援等、連携が図れることがありがたいです。
47	SSWを各学校に配置して欲しいです。
48	同じ職種として、ワーカーとしての視点、立場、考え方などを広く紹介していただき嬉しかったです。言語化できるようになるまでに、いかに関係を構築していくか、地道な取組の必要性を感じました。
49	児童相談所の方のお話の中にあった「親や子は困っていない、学校が困っている」というようなケースではSSWにどのように関わってもらえるのか、そもそも関わってもらえるのかお聞きしたかったです。
50	もう少し連携の具体例が聞きたかった。
51	県立学校がSSWの方に関わっていただくにはどのような方法があるのでしょうか？。「アセスメントが大切」という話は心に残りました。
52	事例というか個人情報を隠して具体的にいろいろと教えて欲しかった。やはり学校がHELPを求める時、SSWの支援が分かると相談しやすい。相談することでより学校現場が混乱するのでは？とついつい思ってしまいます。（石井先生の話から）SSWの存在の大きさがわかりました。失礼しました。知らな過ぎました。反省。
53	民生委員、子ども食堂をやっているが、学校との連携が不十分だと感じている。どう支援したらよいか分からない。
54	SSWがどんな視点で子どもを見ているかを学ぶことができました。
55	具体的でない。
56	子どもの環境を整えるなど、漠然としたありきたりの説明ではなく、具体的にどんな思考のもと、ケースに関わり、アセスメントを行っているのかを図式化していただけたことで、SSWの業務や理念を深く理解することができました。
57	支援を続ける（つなぐ）ことの大切さ、視点の重要さが分かりました。
58	SSWの4つの柱、とても重要だと思いました。私も心にとめて業務にあたりたいと思います。
59	つくづくSSWの大切さが分かりました。私もSWとしてどう活動していくか考えさせられました。
60	相﨑先生の思考を図式化していただけてとても分かり易かった。市町村はどの程度、SSWの方と情報共有したら良いか知りたい。

61	もう少し内容をつめて欲しい。伝えたいことがよく分からなかった場面が散見されました（勿論、よく分かった場面の方が多かった事も付け加えておきます）。
62	SSWの方とも連携させていただいているのですが、より深く知ることができました。今後もさらに資源につながり（自分自身が知り）、バックアップ体制を作っていく努力をしていこうと思いました。

Q3（3） 意見交換「社会資源の活用と支援連携の必要について」

満足度		人数	割合
高	5点	53	49.1%
↕	4点	39	36.1%
	3点	14	13.0%
	2点	1	0.9%
低	1点	1	0.9%
合計		108	



〇意見・感想等

1	連携することの大切さを感じました。抱え込まないことも大切と思う。
2	学校の学習指導と生徒の多様性の対応の折り合いが難しいと思います。
3	現場の様子が分かり易かった。連携の大切さ、役割分担の大切さを感じました。先生たちは大変だと思いますが、チームで乗り越えるしかないと思います。
4	様々な特性をもった鈴木先生が仰った「微妙な人たち」が本当に増えています。40人学級ははっきり申し上げて無理です。だからこそ連携ではありますが、連携するとなれば実際仕事が増えます。そこで「お手上げ」となる教員も少なくなく、手が入れられないということも多くあります。根本の問題は何なのか難しいことですが、人手不足（質も含む）が大きな問題だと思います。
5	課題について、本当にその通りだと思います。日々現場は悩んでいます。柔軟な対応を求められますが、どこまで対応するのが学校なのでしょうか？。全て対応するのが子どものためになるのか、社会で生きていくために学ぶことが学べているのか、すごく疑問やモヤモヤが残ります。対応についてもすべての人が理解してもらえることは少ないので、担当職員は本当に大変です。どこまで教育現場は求められ、応え続けなければならないのでしょうか。
6	学校現場の現状と課題をわかり易く説明していただき勉強になりました。
7	放課後デイにつなげたいが、今、いっぱいのようで利用がなかなかできない、利用日数が少ないというのがもどかしいです。相談支援事業所も手一杯のようなので増えて欲しいと思っている。
8	困っている子が一人で困らないように繋がっていけるような場所を一緒に探していく。そして、自分の声で「困っている」と言えることが大事なことだと思います。できない事に焦点を当てがちだけれども、福祉の視点が良い風を吹かせてくれることもあるので、多様な支援を考えてみる、試してみることが良いのではと思います。
9	様々な立場の方から状況（現状）が聴くことができ良かったです。
10	石井先生からの現場の話が大変勉強になりました。学校の先生の苦労を少し知ることができた。学校以外の学びの場であるフリースクール等も大変な状況です。教育に関わる大人を増やしていきたい。
11	それぞれのお立場からのお話が大変参考になりました。石井先生のお話は地域が違いますが、同じような実情があるのかなと頷きながら聞きました。SSWの活用、児相の活用を考えていきたいと思いいます。
12	具体的な話が聞ける課題に対する解決のヒントがいくつも出されていた。
13	報告者の具体的な内容に課題を共有することができた。年間2回ずつ83校を訪問する中で感じられたこと、見たこと、聞いたことなどなかなか聞くことができないものだった。鈴木先生の一人二役は無理だけど、別の人が連携して引き出していくという話がよく理解できた。

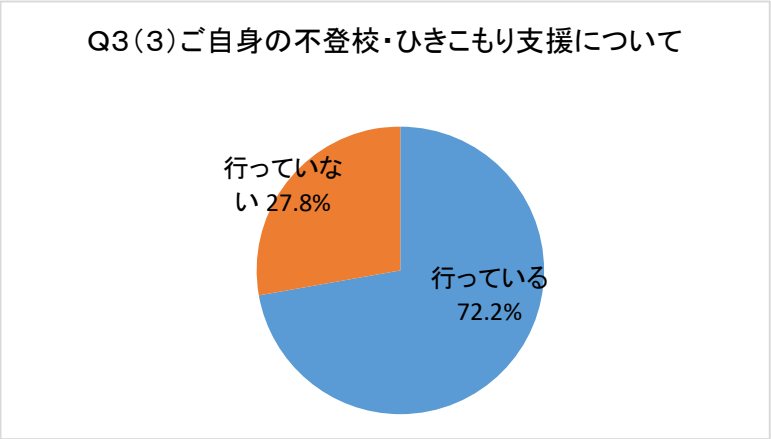
14	人手が足りない⇒　何故増員にならないのか分からない。増員になるよう働きかけはしているのか。子どもの教育に予算を割くべき、声をあげるべき。学校そのものが時代遅れでは?。10年前、息子の中学に行ったとき、軍隊かと思ったことがあります。学校だけの視点では足らないものがあると思う。
15	「私たちは言葉を持っている。是非、ストレングスを伝えていきましょう！」しみました。
16	石井先生が学校訪問をして、学校の課題を示され、特に人が足りない問題の働き方改革に影響しているので、これからもアピールをお願いします。
17	石井先生が提示された問題点は、まさに今、学校現場で起きていることです。三浦さんの「学校でできないことは児相がやるよ」というお言葉とても心強かったです。
18	プロの方々のそれぞれの立場からの意見は大変参考になりました。明日からの指導に役立てたり、心がけを改めたい。
19	フリースクールなどの情報が聞けて良かった。親のサポートを切れ目なく、同感です。
20	具体的な事例に基づき石井さんがお話しされ、とても参考になりました。
21	テーマが漠然としていてパネリストも答えにくそうだったので、もう少し具体化、焦点化できれば良いと思った。石井さんの具体的な事例から柔軟な対応例のヒントをいくつももらうことができた。
22	学校現場の状況をよくぞ伝えていただいたという気持ちです。社会福祉の現場の方々も大変でしょうがモンスターペアレント対策等で学校も大変なことを分かってもらえるとありがたい。
23	高崎市の現状の話についてとても参考になりました。学校の柔軟な対応は求められてはいるものの、現状できないことが多いことは共感できました。保護者の要望についても出来るだけ取り入れていきたいが、どのようにしていくか今後検討していく必要があると感じた。
24	石井先生の率直なお話心を打たれました。先生が言われたように困り感のある子、渋りのある子に対して対応できる人材（教員ではなくて）が必要かと思いました。困窮する学校現場に社会資源がどのように関われるかを考えていくことが不登校を減らせると思いました。学校もいっぱい一杯で頑張られていると思います。
25	ここで言う「解決」の意味がわかりません。いつも同じ方法でいいはずではないはず。ず一っと試行錯誤でいいのでは。
26	石井先生の学校現場からの方向が大変参考になりました。社会資源の活用、連携が急務だと思います。鈴木先生の助言を今後に生かしたいと思います。
27	切れ目ない支援のため、市町村などとの連携も重要であると感じた。
28	石井先生の話は具体的な事例に基づき、課題が分かりやすく伝わった。
29	柔軟な対応の課題、様々な学びの場など掲げられた課題点。・児相、医療にはあるが学校にはない権限、人、費用があり、そこの具体的な改善策（使える制度、これから行政に要請する等）を知りたい。・「児相を使ってください」と仰ってくださったが、「その程度では動けない」「すぐすぐ命の危険はない」と言われてしまう現状がある。中学校までは学校がアプローチをかけるが、その後の引き継ぎ先を具体的に知りたい。福祉課は「本人の希望がないと」と言われるので他を知りたい。
30	全ての学校の対応が同じではない。学校に対する偏見を感じた。
31	石井先生のお話は今学校が抱えている問題を詳しくお話ししていただいたのでとても共感できました。
32	石井先生の活動が理解できた。鈴木先生の医学的な立場からの視点（不安に対しての事）すごく合点だし、最終的には子育て支援予算不足などに繋がるとのことでまさしくと感じた。やはり教育の場は学校でいい、どうして大事な教育現場がこんな状態になってしまったか？？、理解に苦しむ。
33	対応を柔軟にすればするほど、教員の労働拘束や場所の問題が生まれるのだと改めて考えさせられました。学校で行える対応の線引きを明確にする必要もあると思いました。
34	高崎の事例は全くその通り、解決方法は未だにと思う。みどりクリニック鈴木先生の話は良かった。Drの話を初めて聞いたので。
35	どんな相談にも連携が必要。どうつなげていくかが課題。
36	一人で複数役をすることは保護者と上手くつながれないからそれぞれの役割を持つ。専門機関のチーム支援が必要であることが分かった。そのためのイニシアチブをどこが取るのか、連携の難しさがある。
37	児相、学校に人をたくさん付けること。とにかくそれが一番だと思う。

38	学校も保護者との信頼関係構築のために子どもの良さに視点をあてて、お話ししていることも石井先生の文章に載っていますね。少し残念。
39	学校からも報告が欲しい。こちらからの報告や相談はしているが、学校からというのがあまりないように感じる。内部だけでなく、教育という分野だけでなく、違う分野も一緒にという考えが必要だと思いました。
40	社会資源の活用については学校の教員が活用できるものについて知る機会が少ないという問題があると思います。フリースクールとは何か、どのような場所なのか、親の会の存在、教育支援センター、そういうことの情報がもっと知れる機会があると良いと思います。
41	強みの話、聞けて良かったです。
42	具体的な話が聞けて大変参考になった。
43	具体的で分かり易かった。
44	自分が学校職員なので、困っているところについては同じ問題を抱えていると思いました。意見交換の場面ではテーマが広いためか何だか分かりにくかった。
45	言語化、切れ目ない交流の大切さを改めて感じました。外部性による相手の強みを伝えることも信頼関係を築く
46	石井先生の事例報告、資料が大変参考になり興味深かった。
47	石井先生の事例報告は、今の義務教育の現場を分かり易く伝えていただきました。根本的な問題があるので関係各所の方々にもこの話は聞いていただきたいと思いました。ただ、社会資源の活用、必要性についてはあまり話が深まらなかったので次回以降お話しをうかがいたい。
48	学校が抱えている不登校の問題やその対応を知ることができた。
49	認めてあげること、一人で（学校で）抱え込まないで他機関と連携することの大切さ、切れ目のない支援の大切さと難しさ。
50	保護者の対応について学校以外でも苦慮されていることを知り少し安心しました。いずれにせよ、話を聞き、寄り添うことが大切だと思います。私も親へのサポートを何とかしたいと思っています。
51	石井先生の話が良かった。
52	石井先生の不登校に関する内容はとても分かり易く学校現場の様子が手に取るようにわかった。学校だけで解決できないが、様々な連携をしていくのが現状を少しでも良い方向が見えてくると感じた。人員については行政等の力が必要だと強く感じた。
53	石井先生の話には感銘を受けました。学校でも温度差があるので、石井先生のような方に本校も訪問していただきたいと思いました。みどりクリニック鈴木先生にも感謝しています。学校に寄り添い御助言をいつもありがたく思っています。
54	石井先生のお話から学校現場の頑張り、悩み、実情が他機関の人たちに伝わったことがとても良かったと思います。たくさんの事例を通して紹介してくださり、リアリティがあり、説得力がありました。SSWやSCの存在を広く紹介してくださったことも嬉しかったです。
55	医療の話を聞くことができて良かったです。子育てに悩んでいる親は多いと思います。やはり家庭教育に関わることの難しさを痛感しております。
56	学校は本当に教員のボランティアで児童生徒をサポートしている。児相、SSWは少し管理的というか「正しさ」で支援しようとしている。教員はいろいろと犠牲を払っている。SSWや児相が入ると、その方の対応窓口としてその他が疲弊する。とついつい声をかけられない。
57	石井先生の話には共感することが多々あり、学校の抱える困難をどう克服するか？国はこの現状を把握しているのだから、教員の増員さらには教育環境の改善を是非進めて欲しい。連携の重要性を感じるとともに連携先の種類とどこにどんな支援先があるのか知りたくなった。
58	石井先生のお話が学校現場の大変さについて具体的でとても分かり易かった。
59	学校、福祉、医療の異なる視点から課題を理解することができました。
60	様々な視点から子どもや親の支援を一緒に考えていくことが大切。いつから支援するかも大切かと思います。
61	学校の現状や仕事の状態で一人ひとりに対応することがより大変なことが分かり、それだから連携して対応する必要性を感じた。
62	学校の課題をはじめ、他機関の強みを活かしながら連携していきたいと思います。
63	資源の一つとして活動の大切さを再確認しました。

64	信頼関係構築の難しさは誰もが抱えていると知って少し安心した。出来ているところを伝えるのは意図的にしていきたい。勿論、こうすれば良くなると伝えることが大切であるが、まずは褒めて、何でも言い合える関係性を目指すことが優先だと感じた。
65	自らが社会資源という事を看板にして仕事をしていくというならば、先ずその環境の整備についても議論して欲しい。切れ目ないという支援というには異論が多すぎる。SSWやSCの待遇も考えなけらば続けていくことが難しい。
66	市町村、学校、その他の社会資源と連携しているのですが、中には多くつながっているという安心感で終わってしまうことが多々あります。役割分担をよくしていくことの大切さを痛感しました。

Q3（4） ご自身の不登校・ひきこもり支援について

支援	人数	割合
行っている	78	72.2%
行っていない	30	27.8%
合計	108	



〇意見・感想等

1	保護者にどのように話し合いの場に出てもらうか。
2	学校に来られた時に温かく出迎える。次の約束は具体的にせずということに心がけています。根本的な解決にはならないかもしれませんが、ゆるくつながっていられたらとよく思います。
3	家庭環境に問題があることが非常に多く、学校の支援に限界を感じています。各関係機関との連携を図ろうにも「家庭を通して」となると、家庭が納得しなければ入れられない支援も多く、難しい状況がほとんどです。
4	毎日、日々悩んでいます。別室対応、個人対応を求める子どもたちが増え、どう対応するのが正解なのか、子どものためになるのか、周りの理解を得るにはどうしたら良いか、理解が得られなくてもやるべきなのかすごく悩んでいます。支援を一生懸命行っても、必ずしも報われるわけでもなく、誰の力を借りて、どうしていくのが良いか、経験や知識が足りないのでいろいろと学びたいなと思っています。
5	不登校、登校しぶりの児童生徒（小～高校生）に心理検査をとり、背景に考えられる要因を考えることがある。本人の特性の面での困難さが大きい場合は医療との連携の必要性を感じる。
6	家庭環境が大きい。親自身も発達的なもの精神的なものを抱えている場合、親とも連携するのが難しい。
7	早期発見が大切だと思う。要因が特性なのか、環境なのかを（複合的なのか）見つけて手立てを立てていきます。長い不登校になると、その理由が分からない場合、親も慣れてしまって日常になっていることもあります。しかし学生である場合にはタイミングによっては、自分の将来を考える時に提供したい情報を思い出して検索して下さることに繋がるので、いろいろな情報を提供することを心がけていきます。
8	学校で対応する側のため、石井先生の問題提起が大変共感しました。
9	学校以外の学びの場を選択する時、経済的な問題があります。行かせたいけれどお金がない。送迎できないなど。通学補助が出ると良い。
10	学習指導要領に沿った学習は全国で質を揃えるという点では素晴らしいと思う反面、このカリキュラムにはついていけない子どもが多いと感じます。全員が本人のペースで学べる環境がつくれるとよいと思います（不登校は学習面の要因も多いと思うので）。学校が「みんなと同じ」を求めすぎないことが大切だと思います。
11	不登校・ひきこもりはそれぞれに背景があり、対応も様々です。その人のニーズに合ったサービスをいろいろある支援から選ぶことができるよう、支援体制の多様性と強化をお願いしたい。例）・ひきこもり支援にアウトリーチが必要だと思いますが、アウトリーチをしている団体はどの程度あるのでしょうか等。・ひきこもり相談窓口の一つ、こころの相談センターで県内の支援一覧表を作ったが、TEL番号が違ったり、載せるにあたり団体に連絡が取れなかったりなど、不備が目立った。当事者だったら絶対にそんな適当な資料は作らない。支援しているにも関わらず意識が低いのではないか。・他県はもっと支援が充実しています。群馬県ももっと充実を。本人支援も大事ではあるが、家族支援がとても大事です。結局家族が腹を決めて本人と関わっていくことがきっかけの一つとなります。他と連携しながら長期的な視点での切れ目のない支援をお願いしたいと思います。
12	複雑な家庭環境もあり、学校だけでは解決できない事例が増えていると感じている。本日のお話のように”連携”が本当に重要になってくると思う。

13	こちらからの話しかけでなかなか会話を引き出すことができない。まずは信頼関係を築くことが大切であると思っていても、言語化させることができない。何か言語化につなげられる手立てがあればお聞きしたい。
14	予算、人材は欲しい。・SCは年間12回しか来てもらうことが出来ない。もう少し多く来てもらえないか。・相談室に常時いてくれる職員（学習も面倒をみてくれる人）が欲しい。
15	ひきこもりの回復の一歩として「安心安全の場」が第一段階である。何故、安心安全の場が必要なのかを「不安を言語化して良い、行っても良い」という風に本人が思えることが重要である。今日の講義で改めて理解しました。
16	不登校を是とするか、非とするかが難しい。「ひきこもりを防ぐ」（＝社会的自立）を柱とする意識の統一（特に学校）、多様な学びを認める風土の拡大（出席として認める）
17	親が行かせようとしないので、どうにもなりません。
18	不登校対策を行っているが、学校や関係機関とつながれていない。児童生徒への支援をどのように行えばいいのか、常に課題となっている。不登校児童生徒は増加しているが、効果的な対策、支援について、具体的な内容を提示していく必要を感じる。
19	難しいですが、一人ひとりの子や保護者に向き合うことでしょうか。
20	ひきこもり相談に来ている人に対して、私はどうしようとも思っていません。どうこうできると思っていないからです。ひきこもらなければならない状況も、それぞれなので人によって何が問題なのかも違います。とにかく話を聞くだけ、会話をするだけ。それだけですが、前向きに変わって行く方もいます。
21	子どもの気持ちを言語化できる支援を行いたい。
22	卒業後、就労が難しかった場合の行く先がないこと、少ないこと、医療が関わり続ける必要があること。
23	個々に合わせた支援のための理解、各機関との連携。学校現場に専門支援員を増員する。
24	県立の特別支援学校にもSCやSSWを配置若しくは巡回指導をお願いしたい。
25	人間関係の希薄化、家庭の教育力の低下、学級経営の充実、教育支援体制の整備、SC・SSWを各学校一人の配置
26	鈴木先生の「プライドを捨てて」という言葉、その通り、まさにそこから始めないといけないのではないか。SC、SSWの介入もなく不登校の対応を続けてきたが学校においても子ども、保護者に寄り添って対応している。児相等との関わりと同じようにその子自身の将来につながる対応をしているのに「学校がその子のできないところに着目している」「そこが自分たちたちとは違う」との発言があり、とても悲しい。支援連携、切れ目のない支援とは子どもを取り巻く者同士が子どもを中心に考えていくのではないか、誤解を生むような多くの発言に憤りを感じた。
27	子どもだけでなく親の問題で学校に来られない生徒に対してどのように対応していったら良いのか悩んでいます。学校と保護者の関係は切れないようにするためにはSSWの方に関わっていただくのがいいと思いますが、SSWの方が少なくて残念です。SCも今年度来校回数が減らされています。
28	親子の関係（根が深い根源かと思う）玄関口であると思う。相談員方のネットワークの大切さ、専門的な角度からの問題点を出し検討して導いて欲しい。
29	親子関係から生じた問題に関して、どこまで教員が踏み込んでいいか分からない。根気強く話を聞く必要があるが、高校の場合、義務とは違い、単位の問題が出てくる。
30	不登校の原因を探して取り除くことに注力してしまう。しかし原因の解決をどうすべきか、どうでもいいと言うわけではないと思う。どう対応するかを決める手立てになる。
31	ひきこもりは家族が大変、特に子どもが大人になり親が高齢化している家庭は常に悩みに追われている。ひきこもりの子どものアプローチを勉強したい。
32	中学校を完全不登校で卒業し、進学も就職もできず在宅でひきこもりとして過ごすことになるしかない青少年を支援するために何が大事か。義務教育を終える前に行っておくべき支援は何かを知りたい。
33	担任自身に「チームで関わること」を理解してもらえていないので一人でやっている。「一生懸命やっているから頑張もらせてやってくれ」と学年主任も言う。もっと「チーム支援」の理解を進めたい。
34	難しすぎる問題です。
35	保健室登校の子に適応指導教室はどうか先生に相談したら「知的があるわけではないし」と拒否されることがありました。そこが合う合わないかを一緒に考えてもいいのではないでしょうか。高崎市の学校での事例や対応など良いものに関しては、他の市でもすぐに取り入れられるように県として進めてもらえるといいと思います。どうしても大きい市では様々な資源があるが小さな市にはない。という格差が出てきてしまう。

36	自分が担任になった時に必ず直面する課題。周りを見ていると、まず家庭と接触することができない。また言語の問題でコミュニケーションが取れないなど、関わることさえ難しいケースがたくさんある。そういう時にこそ、周りとの連携が大切だと思す。
37	家庭の問題に踏み込むことをためらう学校と、学校は当てにならない感じている保護者との間にある不毛な対立が多くなってきている。
38	焦ってはいかない、ダメとは言わない。褒めてあげる、イライラしない。お母さんと連絡を密にする。何でも聞いてあげる。子どもが免許を取りアルバイトに行けるようになった。
39	支援会議を活かし、地域との連携、支援事業所の方から助けていただいている。通院する医師との連携。
40	石井先生のお話ではないですが、場、人、時間の問題だと思います。また、活動をする時の経済的援助、保護者が負担される費用援助が行政からあると助かります。また、不登校は学校でおこる現象なので、学校の先生たちが余裕をもって対応できる方策が必要だと思います。学校の先生も不登校の対応をリファーするのであれば、保護者への理解をしてもらって、外部機関につないでもらえるといいと思います。
41	家庭内の問題もあるが、まだまだ教員側の理解不足も感じるところがあります。どうしたら捉え方を柔軟にしてもらえるのか、相談係として担任の先生にどう伝えていくべきか悩みます。未だに表面化している問題のみに目を向けている教員もいるので、そこを変えていかないと支援が上手くいなかいと思いました。
42	もっと具体例を使って話をしてほしい。この問題は個々に違いが大きく分類や法則による議論が難しい。限られた時間内である程度の結論を得るためにはテーマを限定して、さまざまな立場から発信する必要がある。〇〇校××君のケース、そこから話を広げていく研修がいいと思う。
43	現在は直接的な関わりはないが、ケース会議に参加したり、SC，SSWと関わる機会があります。やはり学校の立場とは違った見方や支援策の提案がSC，SSWからあるので、チーム学校で取り組むことはとても重要だと思います。
44	保護者の捉え方、考えに寄り添うことが難しい。学校が出来ることには限界があります。子どもたちを救うために支援していくために悩みがつきない現状です。
45	私自身古い人間で「我慢が足りないからだ」とか「サボっているのでは‥」という意識が少なからず持ってしまっていると思う。当然のことながら間違っていることは分かっている。社会全体には私のように困っている人に対して誤った認識の方がおられるのではないかと感じる。この部分を改善していけば解決につながるのでは‥。
46	何が原因なのか本人も分かっていない（掘り下げれば見えてくるが）不登校が増えている。高校では単位取得、進級の問題があるのでリミットがある。登校刺激にタイミング、本人の為になっているのか等、毎回悩むし、何が正解だったのか毎回分からない。
47	完全な不登校になってしまうと、学校は関わりの機会が大分少なくなってしまいがちです。「不登校傾向」の段階でいかに丁寧に関われるかが大切だと思うのですが、他の業務との兼ね合いが難しく、人手不足、時間不足が課題となります。
48	個人的には、柔軟な行動がとれる幼少期、学童期に少し強引でも学校に行き授業を受けさせる。ダメなら家でも役割を与えて欲しい。一日ゲーム、三食昼寝付では将来が心配。教育も家庭も守りに入って何も言えなくなっている。誰が刺激するのだろうか。ダメなものはダメと言える大人を示す。
49	「学校に行かなければならない」「ねばならない」の考えから「行けるようになるといいね」から出発しようということを意識して指導している。まずは家から出て、活動できる場で、その子のペースでできるように支援することから始めている。
50	不登校から登校できる日や時間が出てきた時に、安心して過ごせる教室（部屋）の確保、対応できる人材の確保が難しいと感じる。学校には発達障害でパニックになった時にクールダウンする子や、心から体調不良を起こしている子どもなど、相談室と保健室はフル回転である。その時に勇気を持って登校してきた子どもを静かに落ち着いて受け入れられる空間が欲しいと思っています。
51	学校に行くことが正しくて、行けない事が個人の問題にされやすい社会構造やシステムに問題があると考えます。
52	横のつながりを密にするためにはどうすれば良いのか、親をどのように巻き込むか、学校の意識をどのように変えるか。
53	やはり居場所支援が必要だと思います。ある居場所機関を見学したいと思います。
54	学校とは本来、学習と年齢に応じた社会性を育む場所であるはず、ところがその本来の目的とは違う家庭の問題に学校が巻き込まれている。断るという権限があってもいいのではないか。